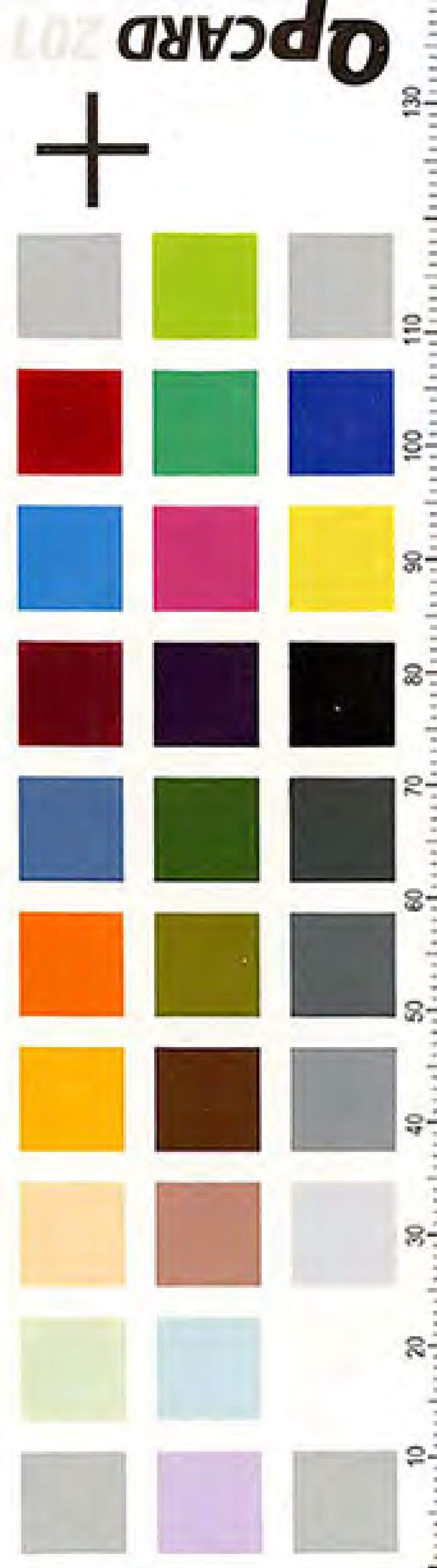


錢鑒貨寫 畫 通油町 鶴喜板

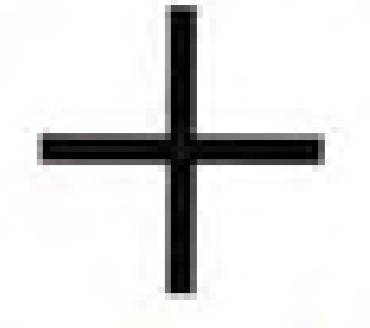


通貨、金融史料	
分類	X
整理番号	X 13 53
受入番号	15658
名称	錢鑒貨字更
備考	X 8 (123)



日本銀行  
貨幣標本室

OPCARD 201



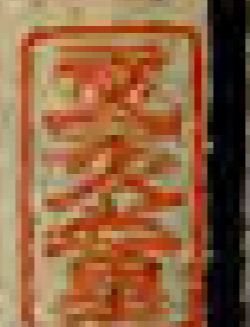
# 曲亭稗史

飯臺曲亭馬琴先醒姓瀧氏名辭字瑣吉性好藉戲  
 謔之言每作稗史以警悟當世是以雖兇園冊子亦  
 有深意之存焉直可謂滑稽之雄也先生嘗言趙再  
 白詩云名士本來如画餅古人原不好真龍先生之  
 於小說也皆根于此予每歲請于先生而離刊其所  
 著凡賜顧君子認印號為記冀不至悞

江戶膏坊翠橋仙鶴堂老舖小林喜備謹白



寬政庚申靈晨發行



新鐫 稗史 錢鑑 貨寫 畫



月痕磨出テ

此生前

非是推ス破

驅市廓

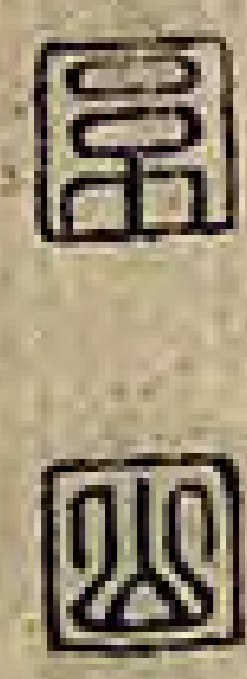
情見真如

深貶思

人間推弄

隻神錢

京山陳人顯

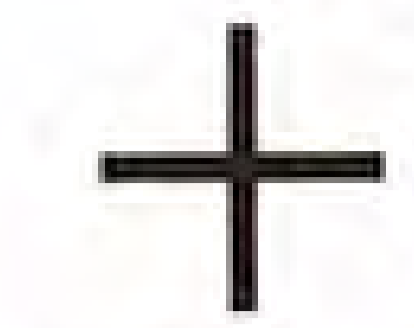


馬琴作









○

おちやう銭

うくららちやう銭もて  
 おちやう銭のうくららちやう銭を  
 のどいていれはれ方を  
 せんせんにばらばら  
 をいさぎあがりやう  
 甲をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん  
 おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん  
 おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん

おちやう銭  
 おちやう銭  
 おちやう銭  
 おちやう銭  
 おちやう銭  
 おちやう銭

おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん  
 おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん

おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん  
 おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん



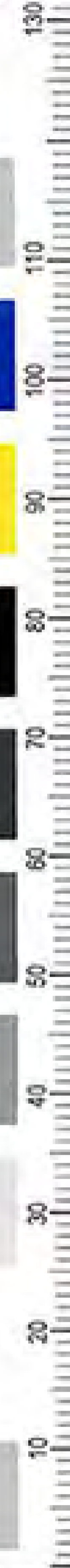
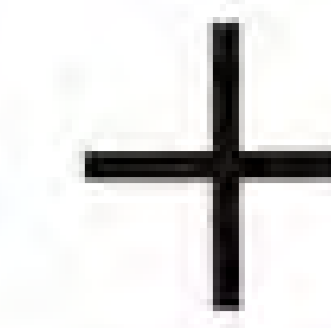
おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん  
 おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん

おちやう銭をきいたても  
 可んていさやうしてん  
 可んていさやうしてん









回 車念佛

如是我聞 佛の

洋



いけありとれがわい  
ゆみののうらみのせに  
とくをうけてあむの  
まはるるのうらみの  
あけぬのやうを  
まはるるのうらみの  
のうのうらみの  
いけありとれがわい

いけありとれがわい  
ゆみののうらみのせに  
とくをうけてあむの  
まはるるのうらみの  
あけぬのやうを  
まはるるのうらみの  
のうのうらみの  
いけありとれがわい





◎ 醉樂通室

酒の味を知るには  
酔ひたる時こそ  
此の世は夢の如し  
酔ひては世の憂ひ  
も忘れしめて  
心も楽なり  
酒は人の心  
を酔ひて  
世の憂ひ  
も忘れし  
心も楽なり  
酒は人の心  
を酔ひて  
世の憂ひ  
も忘れし  
心も楽なり



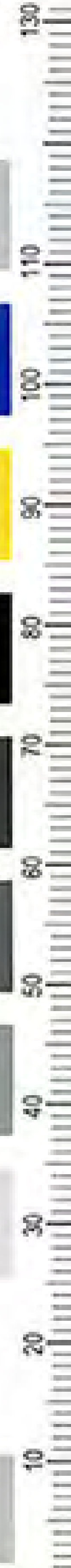
酒の味を知るには  
酔ひたる時こそ  
此の世は夢の如し  
酔ひては世の憂ひ  
も忘れしめて  
心も楽なり



酒



酒の味を知るには  
酔ひたる時こそ  
此の世は夢の如し  
酔ひては世の憂ひ  
も忘れしめて  
心も楽なり  
酒は人の心  
を酔ひて  
世の憂ひ  
も忘れし  
心も楽なり



八咫人語

おん人の心なるを  
 世にあらはし  
 人の心なるを  
 世にあらはし  
 ... (rest of the vertical text block)

井上り  
 ... (rest of the vertical text block)

月夜  
 ... (rest of the vertical text block)

能 於 福  
 變 翻 為  
 福

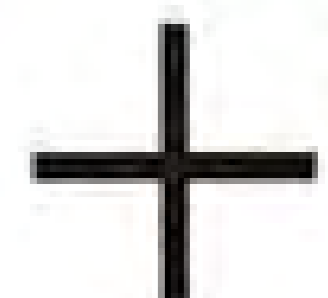
解 白  
 能 言 家 買  
 即 恩

飯 野 山 人 録



国々  
 ... (rest of the horizontal text block)





130  
110  
100  
90  
80  
70  
60  
50  
40  
30  
20  
10

佛法僧室

いづれにありてふとあり  
ひらきつらてふいそ  
つらつらつらつらつら  
ふふふふの押登  
われははははははは  
いづれにありてふとあり  
ありてふとありてふとあり  
ありてふとありてふとあり  
ありてふとありてふとあり

丈六銅佛建立

あき入るるるるる  
あき入るるるるる  
あき入るるるるる  
あき入るるるるる  
あき入るるるるる  
あき入るるるるる  
あき入るるるるる  
あき入るるるるる  
あき入るるるるる  
あき入るるるるる



いづれにありてふとあり  
ひらきつらてふいそ  
つらつらつらつらつら  
ふふふふの押登  
われははははははは  
いづれにありてふとあり  
ありてふとありてふとあり  
ありてふとありてふとあり  
ありてふとありてふとあり

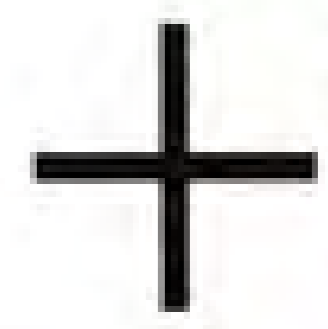
谷麻呂合宝

いづれにありてふとあり  
ひらきつらてふいそ  
つらつらつらつらつら  
ふふふふの押登  
われははははははは  
いづれにありてふとあり  
ありてふとありてふとあり  
ありてふとありてふとあり  
ありてふとありてふとあり



いづれにありてふとあり  
ひらきつらてふいそ  
つらつらつらつらつら  
ふふふふの押登  
われははははははは  
いづれにありてふとあり  
ありてふとありてふとあり  
ありてふとありてふとあり  
ありてふとありてふとあり





心中  
全

あはれうせむはれ  
青紙なつあらつる  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて



あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて

あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて



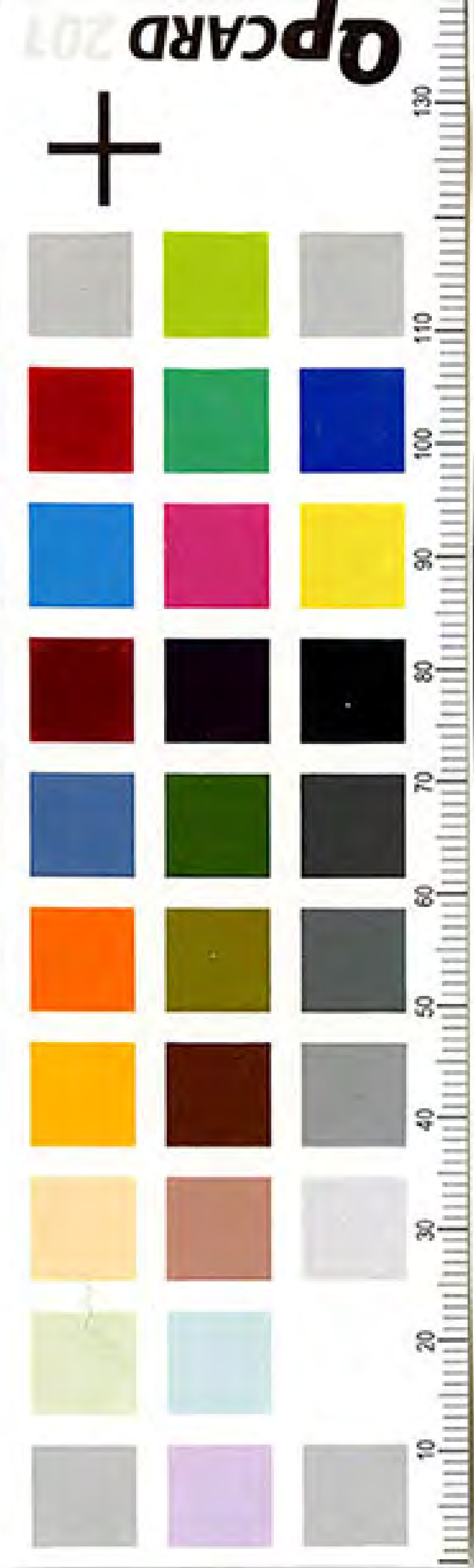
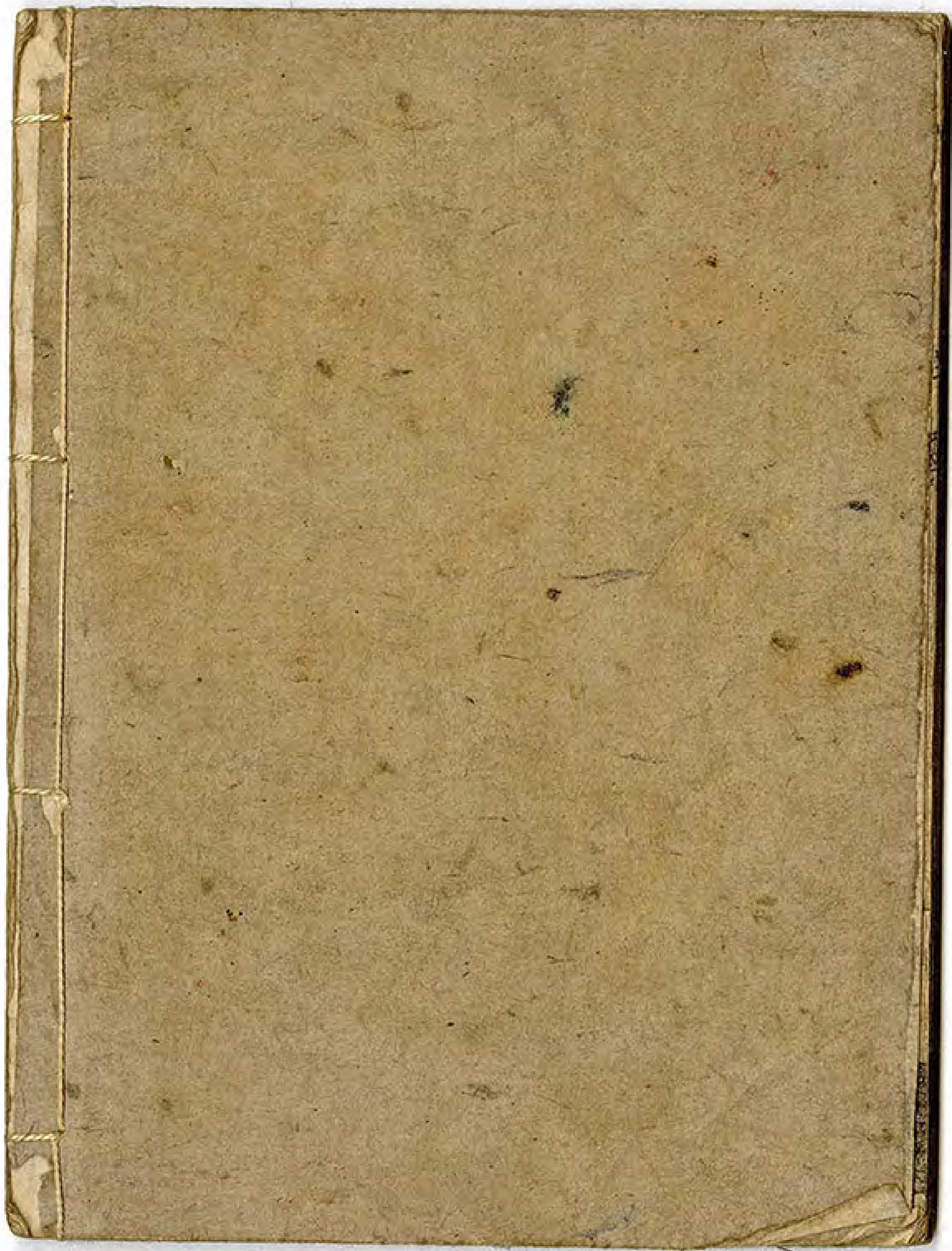
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて  
あはれりつあつて











# 展示した『銭鑑貨写画』の場面

## 内容と主なセリフ

〇**酔楽通宝**  
**酔楽通宝**（よいらくつうほう）は、俗に言う**後引き銭**である。形は角が立って、裏に**太平楽**の三字がある。

〇**大意**  
わずかにこの**銭**を手に触れば、**目まい**、**立ちくらみ**が起こり、**家の内は回り灯籠**のように見え、**ひどい時には一足も歩けなくなる**。口から**小間物**を出し（**嘔吐**）しても、犬よりほかに**買い手**もなく、いくら稼いでも**宵越しの銭**を持たない。

しかし、持ち手の心によって少しずつ貯えておき、時々出して適度に**楽しめば**、**長命の幸**があつて、**とてもめでたい宝**である。



この男はあつたら（惜しいこと）**銭**をみんな小間物にして（吐いて）しまった。

酒も色々飲んでみたが、池田の（**すやま**）ほど良い酒はあるめえ。まず第一に火がいらす色が白く、口あたりが良くて、いつ迄おいても悪くならぬことが妙だ。それだからこう酔つたのだが、どうしたのだ、中腹（**ちゅうはら・怒る**）じゃあねえが、やろうの**法螺貝**（**ホラ・テマ**）だと知つてな、ぶうくを言わせちゃあ、大峰山上の先達より音がするのだから、ゴウくくく。

**酔っ払いに注目！**  
倒れた酔っ払いを人々が困り顔で見えています。当時、嘔吐することを「小間物店を出す」と表現していました。

《大意》

○読書調宝

**読書調宝**（よみかきちようほうせん）は、その値一字千金である。一年中怠りなくこの**銭**を持ち通せば、**筆一本・紙一枚で百里千里の先々まで通用する身の宝である。**

昔の師匠は弟子を選んで道理を教えたものだが、今の師匠は謝金を取って技能を教える。そのため、師匠のおかげで読み書きや諸芸が身につく弟子と、弟子のおかげで飯を食う師匠という関係になる。

お互いが利益を得ているようだが、子供の技能や諸芸が仕上がるには時間がかかるので、その面倒を見る師匠の大変さは、単純に勘定通りにはいかない。

ただ、師匠の方も、生活のために教えて稼いでいる弱みもあり、何と云っても謝金を出している子供たちの立場が強いものだ。



この場面では、子供たちは線香一本が燃えつきるまで、おしゃべりを我慢することになっているため、子供の書入れ（セリフ）は書いていない。

皆、精出しまし  
ようぞ。とかく  
人は読み書きが  
第一じゃ。もろ  
こしの人は、寝  
たうちも読み書  
きの事を忘れぬ  
ゆえ、かの唐人  
の寝言にも、読  
み書き算用とら  
やア〜と云う  
たものじゃ。